



チャレンジ

# 家庭菜園

## カリフラワー

### 純白な花蕾を適期に収穫

カリフラワーの生育適温は15～20度といわれ、耐暑性、耐寒性のある野菜です。

夏まき・秋冬取りが一年で最も作りやすい時期で、温暖地では7月中旬～8月下旬が種まき期です。

#### 品種

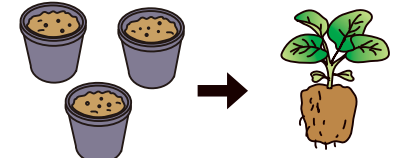
カリフラワーは花蕾ができるには、茎葉の大きさとある程度の低温が関係し、中生品種は早生品種に比べ、より進んだ生育と、より低い温度が必要です。

そのため、長い間の収穫を楽しむには品種の使い分けが必要です。

早生品種では「バロック」(サカタのタネ)、「スノークラウン」(タキイ種苗)、「雪まつり」(武蔵野種苗園)など、中生品種では「輝月」(野崎採種場)、「スノードレス」(タキイ種苗)などがあります。茎葉と花蕾がコンパクトな「美星」(サカタのタネ)、スティック状に花茎が伸びる「カリフローレ」(トキタ種苗)など、ユニークな品種もあります。

#### 苗作り

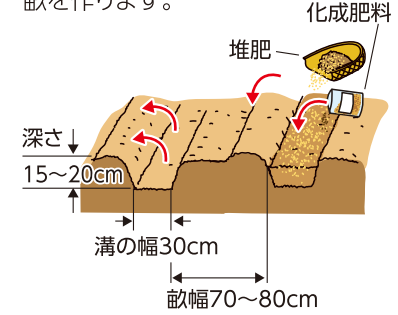
直径7.5～9cmのポリポットを使い1ポット当たり4～5粒をまき、子葉展開時に密生部を間引き、本葉2～3枚で1株に間引き、本葉5～6枚まで育てます。128穴のセルトレイでは1穴2粒まき、間引いて本葉3～4枚まで育てます。



育苗期間中は、防虫ネットのトンネル被覆で害虫の飛来を防ぎます。

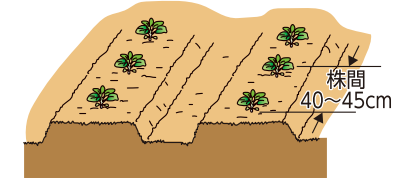
#### 畑の準備

植え付け2週間前に、1平方メートルあたり苦土石灰100gをまいて、深く土を耕しておきます。1週間前に畝幅70～80cm、深さ15～20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%)100g程度と堆肥2kgを施し、土を戻してよく混ぜて畝を作ります。



#### 植え付け

本葉5～6枚のころ、株間40～45cm程度に植え付けます。

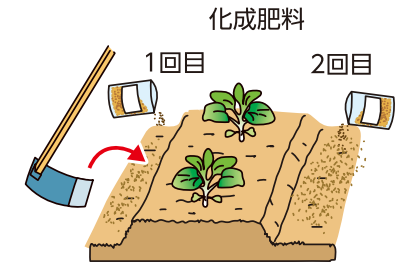


植え傷みが起らないように、植え穴には十分水を注いでおきましょう。

#### 追肥

植え付け20日後ごろに畝の片側に化成肥料を畝1m当たり50gくら

いまいて、土寄せします。その20日後ごろに畝の反対側に同量を施用します。



#### 病害虫の防除

ヨトウムシ、コナガなどが多いので「トアロー水和剤CT」などで駆除します。

#### 収穫

花蕾が見えたら、花蕾に日焼けや汚れが付かないように、外葉の1～2枚を内側に折って花蕾に載せます。



花蕾が12cm以上の大きになり、つぼみの表面が緻密なうちに、外葉を6～7枚付けて切り取ります。



# 営農情報

## トレンド

最新の農業情報や肥料・資材などの新商品、さまざまな「営農」に関わるトレンドを営農アドバイザーがご紹介



### イチゴ

## 炭そ病を出さず広げず苗確保

トップ営農指導員  
営農部営農課  
課長補佐 伊豆澤 秀憲

葉かき前



葉かき後



1 2 炭そ病の疑わしい症状例

●「炭そ病」になりやすい高温多湿条件下にあるため、できる限り苗ポット間隔を広げ、「葉かき」で葉を2.5～3枚程度に管理します。(混ませない・蒸らさない。軟弱徒長させない。風通しをよくする)

●「葉かき」は晴天日に行い、消毒は必ず傷口が乾いてから。雨の日には基本手入れをしません。

●薬剤予防防除は、新葉が1枚展開するごとに1回(1週間程度)一度が基本です。抵抗性がないように系統(FRAC)ローテーションで行います。

●天気予報を見ながら、雨前防除を基本とし、散布後、薬剤が乾き、葉をコーティングするイメージです。

●毎朝、自分の苗場を見まわり、異変がないかを観察し、罹病の疑いのある苗は選別除去処分します。

●他に、この時期にする作業・準備

- ランナー切り離し後、灌水の工夫(時間帯や回数・量)
- 育苗終盤の肥料切れに注意
- 定植床の準備(団粒構造、排水性、水分保持、地温)

現場でのご相談は各地区のイチゴ担当の営農アドバイザーにお尋ねください。

苗が出そるい、混み合いがちになり、ランナー切り離し後に苗が一時的に体力を落とすようなこの時期から、「炭そ病」の発生拡大が見られる傾向にあります。生産安定のためには罹病して

いない健苗を必要本数確保することが重要です。この時期からでも注意すべきことを改めていくつか挙げてみました。

●厳しい条件下での仕事ですので熱中症に気を付けてください。台風シーズンには災害への備えも大事ですが、自身の体の安全と健康を第一に考えて頑張ってください。